

REPORT

陽だまり隊自主企画 テーマは「プレゼント」

第7回みの～れ川柳 入賞作品決定!

毎年恒例となった、みの～れ陽だまり横丁の自主企画「みの～れ川柳」。本年度も「プレゼント」というテーマで、774通の県内外から応募がありました。今回は、よりよい川柳を選ぶために、川柳講師の海東照江さんを迎え、川柳ワークショップも行われました。「川柳には、難しい約束事はありません。皆さんの感性で楽しく川柳に向き合い選んでみてください」とアドバイスをいただきました。「川柳企画は、好評な企画です。もっと、理解を深めながら、これからも続けて行きたい!」と陽だまり隊の皆さんも語っていました。当初予定より長く9月30日までみの～れホワイトに全作品が展示されています。皆さんもぜひ足を運んでみてくださいね。<みのんば編集局 加藤 篤子>



2015.7.14Minole

REPORT

夏休みコスモスプロジェクト なるほど!自然災害

Dr.ナダレンジャー「夏休みサイエンスショー」

コスモス大ホールの舞台上で、液状化現象をペットボトルを使って実験し、体感できた53名の子もたちは大喜びでした。保護者と客席から見ていてこんな舞台の使い方も生涯学習センターらしいと思いました。この企画はコスモスプロジェクト2年目になる東邦彦さんの提案から始まりました。Dr.ナダレンジャーこと、納口泰明さんのサイエンスショーは、子どもだけでなく大人の心もつかまえる、不思議なそしてとてもためになるショーでした。

<みのんば編集局 野手利江>



2015.7.26Cosmos



展示

◆◆◆ 陽だまり大賞 ◆◆◆

荷を解けば 故郷の風が 吹いてくる

相模秋茜 さん

◆◆◆ みの～れ賞 ◆◆◆

息子から 届いた花束 着払い

みちこ さん

◆◆◆ 入賞 ◆◆◆

あかぎれの 指にダイヤの 感謝状

アリス さん

「はい、どーじょ」思わずひるむ だんご虫

あやママ さん

「モジモジ」が 今では「ズケズケ」リクエスト

ごん太 さん

相合傘 贈ってくれた にわか雨

風信子 さん

口下手で わたしを丸ごと ラッピング

川崎のたつ さん

母の日に 一日シェフの 子どもたち

ゴーリキ さん

誕生日 娘さし出す クレヨン画

青空太郎 さん

高かった モノに粗品と 書く勇氣

いしざわ こと さん

無事帰宅 それが一番 プレゼント

きなこ さん

贈るもの、 選ぶ時間も、 贈れたら

みずどりめぐみ さん

9月30日(水)まで延長展示決定!

REPORT

光と風のステージCUE vol.30

本田雅人×鳥山雄司 Special Duo Live

光と風のステージCUEはライブハウス形式で、アーティストの演奏や歌声を身近で聴けると、毎回好評で今回で30回目を迎えました。本田雅人さん(sax)と鳥山雄司さん(guitar)のスペシャル デュオ ライブは演奏はもちろん、楽しいトークで会場は盛り上がりしました。真夏の暑さも吹き飛ばしたライブは、「お話しも演奏も職人という感じでした。また来て欲しいです」「一人でも遠慮なく来れるのが魅力ですね」「新しい機械(ルーバー)を取り入れて、面白おかしく説明しながら演奏したのは、さすが!!と思いました。楽しかったです」と魅力で一杯のステージでした。<みのんば編集局 藤田佐知子>



2015.8.1 Minole

2015小美玉市リコーダーワークショップ ♪ 笛の音楽隊参加者募集 ♪

- 対象者：小学校3年生以上なら誰でも!!リハーサル、コンサートに参加できる人
- ワークショップ日程：9/19、10/4、10/17、10/31、11/6、11/7(コンサート実施)
- 参加費：無料
- リコーダー指導：一村誠也(東京芸術大学別科修了)
- お問い合わせ：生涯学習センター(コスモス)

締切9月12日(土)



《仮称》四季の里フェスティバル2016 委員募集!

一日限りの一大アミューズメントパークを作り上げる実行委員を募集します。
自分のやってみたい! をカタチにしてみませんか?

募集〆切：9月27日(日)

実行委員の活動内容：イベントの企画立案、準備、実行、運営等をみの～れ職員とともに行っていただきます。

活動期間：2015年10月～2016年5月まで

開催日時：2016年4月初旬

開催場所：四季文化館(みの～れ)館内及び芝生広場



まるごと文化情報局

文化が薫るまちづくりを進める小美玉市。劇場から飛び出して、文化を発信している「ひと・もの・ところ」等を紹介して行きます。

なんと茨城新聞社さんと同時で取材実施!



みのんば編集局 貝塚さん

茨城新聞社記者 高層さん

『Red Bull BC One Asia Pacific Final 2015』への出場を決めた菊地教稔さん。インタビューのはじめにお祝いの言葉をかけると、「期待してください」と明るい答えが返ってきました。その眼は自信に満ち溢れているようでした。ストリートダンスをはじめたきっかけは「女の子にモテたくて」と話す菊地さん。しかし深くダンスにかかわるうちに「ダンスのおかげで国境を越えた仲間ができた、いろいろな国の人も交流を深めることができました。ずっと真剣に続けてきたおかげで感性を磨くこともでき、感謝の気持ちが自然と生まれてきました」と話してくれました。『APIOS STREET DANCE FESTIVAL ONE』は、涙が出てくるような感動する舞台にしたい」とも話す菊地さん。自身のアジア大会リベンジと出身地でのイベントへ、自然体でありながらも内に秘めた闘志を感じました。Fight! Noritoshi!! <みのんば編集局 貝塚勇>



Vol. 04 小美玉“から”こんな人が!! インタビュー
ブレイクダンサーNORIこと 菊地教稔さん